令和６年度　佐久市立浅科中学校グランドデザイン

【学校教育目標】

『志高錬成』

~志を高く持ち、よりよい成果を得るために、ねばり強く自分を鍛える~

【学校長の願い】

1 .生徒も教職員も「明日も学校へ来たい！」と思える学校

2 .激変する未来社会にたくましくしなやかに対応して地域を支えていく人材を育む学校

【浅科中学校全校研究テーマ】

新たな自分の問いを生み出す探究総合や各教科の探究的な学びのあり方

～「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善～

【授業づくり・学びづくり】

１.生徒の「問い」や「疑問」から出発する授業をめざします

２.意見や調べたことなどの発表会にとどまらず、ＬＩＶＥで意見交換するなどして、対話力を育てます

３.生徒同士、生徒と教師など、対話の対象を明確にして、より主体的に生徒が対話活動できる時間をつくります（教師が話すより生徒が話す時間の方が長い授業）

４. 生徒による授業評価を基にして授業づくりを見直します

５.生徒が「わかる・できる」を実感できる授業をめざします

６. ICTの活用を工夫し、生徒が取り組みやすい授業、対話や深い学びにつながる学習をめざします

７. 講演会などの行事等における感想を含めたお礼の言葉などを生徒が語る場面をつくります

８.生徒が主体的に取り組む家庭学習を支援し、習慣の確立をめざします

【めざす生徒像】

1.広く対話をもとめて、明るく豊かな生活を創り上げていく生徒

2.自分の考えをもち、主体的に追究・表現する生徒

3.仲間の良さから学び、互いを理解し高めあう生徒

【生徒の願い】

◎行きたいと思える、過ごしやすい学校

1.クラスや学年を超えた交流ができる学校

2.楽しく過ごせる学校

【生徒会テーマ】

『INNOVATION』

1.生徒全員での生徒会活動の実行

2.他学年や他部活との進んだ交流

3. 生徒の意見を取り入れ、現在の課題解決にチャレンジ

学びや生活を豊かにするための“対話力”の向上

【認め合い、支え合う学級・学年集団づくり】

1.まずは『挨拶』から。心を開き、相手と近づく第一歩を大切にします

2.自分の思いを発信できる積極性と相手の思いを聞き取る共感力を育みます

3.学級・学年で『歌声』『清掃』『食事』の向 上を柱に、支え合う集団づくりをめざします

4.生徒同士、生徒と先生のコミュニケーションの中から、多様性（違い）を認め合い、励まし高め合える集団づくりをめざします

5.集団内のすべての人の存在を気遣い、生徒と教師が人権感覚を高めます

【「生きる力」を育む資質・能力の３つの柱の育成】

１.「知識及び技能」

何を理解しているか　何ができるか

２.「思考力・判断力・表現力」

理解していること　出来ることをどう使うか

３.「学びに向かう力、人間性」

どのように社会・世界と関わりより良い人生を送るか

【第４次長野県教育振興基本計画(目指す姿)】

「個人と社会のウェルビーイングの実現」

～一人ひとりの「好き」や「楽しい」、「なぜ」をとことん追求できる「探究県」長野の学び～

【佐久市教育振興基本計画(目指す子ども像)】

「自ら考え、夢と志をもって、ともに拓く子ども」

【ＰＴＡ・地域の願い】

”つなぐ“

1.あいさつや会話を通して思いやりを学び、人の温かさを大切にする

2.学校、地域での取り組みを次世代へとつなぎ、広げていってほしい

【保護者・地域との連携】

・ＰＴＡ活動、講演会

・コミュニティスクール

・授業参観日

・学校だより、ホームページ等

・部活動　　・職場体験学習

（地域の教材や人材の活用）

【学校評価アンケートより】

１.生徒、保護者、職員によるアンケートを実施

２.三学期の参観日で保護者へ発信

３.ICTを活用しての学校評価の実施

【未来に向けた自分づくり】

1.生徒が積極的に校外へ出かけ、多くのヒト、モノ、コトと出会い、自分の課題を心ゆくまで探究します

2.自分の中で生まれた課題や疑問を自ら探究し解決しようとする力や、相手との協働によって、互いのよりよい状態を目指す力を育みます

3.生徒主体の職場体験学習や、地域の事業所からの職業講話、地域高校の先生やそこに通う先輩からの進路講話を通して、自身の進路を自ら切り拓く力を育みます

4.地域と積極的に触れあう生徒会活動で様々な人と対話できる人間力を養います

5.生徒が主体的に生活のきまりを見直して、より生活しやすい学校生活を創造します

6.道徳・人権同和教育・性教育を通して、命の大切さを学びます

※いじめ・不登校支援対応

生徒一人一人の困り感に寄り添い、家庭・教師間（必要に応じて関係外部機関）の連携を密にしながら、迅速かつ丁寧に生徒・保護者への支援を行っていきます